

AIDS UPDATE

No.46 2004.5.26

広島大学病院

エイズ医療対策室

内線5581 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

こんにちは エイズ医療対策室です!

☆ ブロック拠点病院の役割 ☆

◆ エイズ医療対策室は、1997年に院内措置で作られました。「薬害エイズ裁判」は和解という形で一応の決着を得ましたが、和解後の継続協議で約束したひとつが、医療体制の整備です。こうして厚生労働省が指定する「エイズ治療のための中国四国地方ブロック拠点病院」に広島大学病院がなったのです。院外に向けた使命とともに、院内のエイズ医療をしっかりさせる役割があります。針刺し事故にも対応しています。スタッフのうち医師は血液内科の木村医師、輸血部の高田医師、藤井医師、小児科の石川医師が担当しています。看護は対策室の河部看護師、心理士の喜花、情報担当の大江がいます。外来診療は火曜日と木曜日に血液内科の外来を使って行っています。院内の講演会、研修会もお引き受けしますのでお申し出下さい。

☆ HIV検査について ☆ HIV感染のリスクを伝えて検査を勧める 医療者のためのガイドブック

◆ 保険医療では「無症状の人に検査をすること」は査定の対象となっており、検査を推進する上ではブレーキになっています。術前検査の方が特例に近いものです。このたび性感染症の患者にHIV抗体検査を行うことが認められました。

◆ 無症状の人のために厚生労働省は保健所検査とエイズ拠点病院での検査費用を補助しています。広島県と本院は契約を結び、検査を希望される方に、1,830円の自己負担の元に検査を提供することになりました。案内

はパンフレットと、ホームページにあります。連絡先は対策室で、河部看護師がお受けします。

連絡先: Tel 082-257-5351

◆ 院内の患者さんについては、できるだけ臨床科で対応して頂きたいと思います。パンフレットを作りましたのでご利用下さい。残部がありますから必要部数をお知らせ下さい。院内の患者さんでも対応にお困りの場合は遠慮なくご相談下さい。

☆ 第9回広島ウイルス研究会 ☆

◆ 添付のチラシのように、6月10日にリーガロイヤルホテルで講演会があります。会費は1000円ですが、どなたも参加できます。特別講演の岩本愛吉先生は、東大医科研付属病院の院長で、日本のエイズ医療をリードしているお一人です。わかりやすい語り口でベッドサイドから試験管の中までお話いただけたと思います。

☆ 中四国エイズセンターのHP ☆ <http://www.aids-chushi.or.jp>

◆ エイズの予防啓発などのサイトは沢山ありますが、医療情報は多くありません。私たちのサイトはエイズ/HIV感染症の患者のケアを行う人に役立つ情報を提供しています。メンバー紹介などがあります。ご覧下さい。

☆ J-AIDSはエイズのメーリングリスト ☆ <http://groups.yahoo.co.jp/group/jaids/>

◆ J-AIDSは、エイズについてのオープンなメーリングリストです。患者さんを含む約800名の参加者、6000件以上の投稿記事を参照することができます。

平成16年4月26日
2003(平成15)年エイズ発生動向の概要について
厚生労働省エイズ動向委員会

http://api-net.jfap.or.jp/siryousiryousiryou_Frame.htm

1 HIV感染者の報告数

2003(平成15)年は、日本国籍・外国国籍合わせて640件と、過去最高となった(これまでの最高は2001(平成13)年の621件)。日本国籍男性の増加が顕著で、本年の報告数は525件と初めて500件を超え(過去最高)、全体(640件)の82%(過去最高)を占めている。

2 AIDS患者の報告数

本年は、日本国籍・外国国籍合わせて336件で、HIV感染者と同様、過去最高となった(これまでの最高は2001(平成13年)の332件)。AIDS患者についても、日本国籍男性の増加が顕著で、本年の報告数は252件と過去最高となった(これまでの最高は2000(平成12)年の239件)。

3 感染経路

本年のHIV感染者報告例の感染経路は、同性間の性的接触が356件(55.6%)、異性間の性的接触が178件(27.8%)で、性的接触によるものが、合わせて534件(83.4%)を占めた。AIDS患者報告例の感染経路は、性的接触によるものが合わせて67.6%(227件)で、そのうち、異性間の性的接触が131件(39.0%)、同性間の性的接触が96件(28.6%)であった。

日本国籍男性については、次のような点が認められた。HIV感染者・AIDS患者のいずれにおいても、同性間の性的接触が1999(平成11)年から急増しており、本年はいずれも過去最高の報告数(HIV感染者340件、AIDS患者91件)となった。AIDS患者の異性間性的接触と同性間性的接触の比を見ると、1997(平成9)年～2000(平成12)年では、異性間性的接触と同性間性的接触の比は3:1～2:1程度であったが、2001(平成13)年から次第にこの比が1:1に近づき、2003(平成15)年には同数となっている。感染経路別に、HIV感染者報告数とAIDS患者報告数の比を見ると、異性間性的接触では、HIV感染者とAIDS患者とはほぼ1:1となっているが、同性間性的接触では、HIV感染者がAIDS患者のほぼ3倍となっている。

1985年以降の累積報告数で異性間性的接触による日本国籍HIV感染者の性別構成を見ると、合計では男性1,121

人、女性372人と、男性が75%を占めるが、年齢階級別に見ると、15-24歳では男性71人に対して女性99人と、女性の方がむしろ多い。

4 外国国籍報告

本年のHIV感染者は83件(前年93件)、AIDS患者は65件(前年56件)となっており、合計件数についても、感染経路についても、過去10年間では年次推移に大きな変化は見られない。

5 推定される感染地域及び報告地

推定される感染地域は、HIV感染者の78.0%(499件)、AIDS患者の64.0%(215件)が国内感染であった。報告地は、東京、その他の関東・甲信越ブロックが依然多く、本年報告例ではHIV感染者の61.6%(394件)、AIDS患者の64.9%(218件)を占めている。ただし、年次推移をみると、その他全てのブロックにおいても、過去最高レベルの報告が続いている。

6 まとめ

2003(平成15)年におけるHIV感染者、AIDS患者の報告数は、いずれも過去最高となるなど、依然として増加を続けている。HIV感染者は、性的接触によるものが83.4%を占め、うち同性間性的接触が55.6%を占める。

したがって、男性の同性間性的接触によるHIV感染に対しては、外国国籍者も考慮した積極的な予防施策が必要である。若年層の日本国籍異性間性的接触では、女性感染者が男性感染者を遙かに上回っている現実は周知されるべきである。

HIV感染は、これまでの東京を中心とする関東地域に加え、近畿、東海ブロックなど地方大都市においても報告数の増加傾向がみられ、各地域での対策の展開が望まれる。

<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。
ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]

takata@aims-chushi.or.jp